

平成27年12月期 決算短信資料

2016年2月9日(火)

カゴメ株式会社(2811)

<http://www.kagome.co.jp/company/ir/index.html>

平成27年12月期 連結業績

◆連結業績

連結業績		対前年		対期初予想
売上高	1,956億円	+16億円	+0.8%	▲44億円
営業利益	67億円	+20億円	+43.8%	▲4億円
経常利益	70億円	+15億円	+27.9%	▲6億円
当期純利益	34億円	▲14億円	▲29.7%	▲6億円

平成27年12月期 連結業績

◆連結売上・利益

	14年度	15年度			売上高利益率	
		増減額	増減率	対公表	14年度	15年度
売上高	1,940	1,956	+16	+ 0.8%	▲44	
国内事業	1,718	1,670	▲48	▲2.8%	—	
国際事業	408	479	+71	+ 17.4%	—	
セグメント間取引	▲187	▲193	▲7	—	—	
営業利益	47	67	+20	+ 43.8%	▲4	2.4% 3.4%
国内事業	55	65	+10	+ 18.5%	—	
国際事業	▲8	2	+10	—	—	
経常利益	55	70	+15	+ 27.9%	▲6	2.8% 3.6%
当期純利益	49	34	▲15	▲29.7%	▲6	2.5% 1.8%

※各事業の利益は「セグメント間の消去・及び調整」後。

- ・増収増益(当期純利益のみ前年の固定資産売却益の影響で減益)。
- ・国内:野菜飲料競合激化により減収。生産性の向上や原価低減等で増益。
- ・海外:PBI社純増、円安好影響により増収。米国販売好調、各子会社の費用見直しにより増益。
- ・期初予想値に対しては、売上、利益ともに未達。

平成27年12月期 セグメント別収益状況

◆国内売上・営業利益

単位：億円

単位：億円

	売上高				営業利益			
	14年度	15年度	増減額	増減率	14年度	15年度	増減額	増減率
国内事業	1,718	1,670	▲48	▲2.8%	55	65	+10	+18.5%
飲料	810	744	▲65	▲8.1%	28	23	▲5	▲17.9%
食品	234	232	▲1	▲0.6%	16	18	+2	+10.5%
ギフト	79	80	+1	+0.8%	▲2	1	+3	—
農	94	110	+16	+17.1%	2	7	+6	+366.2%
通販	85	88	+2	+2.9%	1	9	+8	+932.6%
業務用	261	261	▲1	▲0.2%	5	2	▲4	▲70.1%
その他	155	155	▲0	▲0.0%	6	6	+0	+4.9%

- ・飲料：他の飲料カテゴリーとの競争激化。広告費の見直し等行うも、原料価格上昇により、減収減益。
- ・食品：価格改定を行ったトマトケチャップは好調も、ソースは苦戦。不採算商品の終売等で増益。
- ・ギフト：ネットやカタログ通販、防災備蓄などの新しいチャネル開拓が進み増収増益。
- ・農：生鮮トマトが好調に推移し、過去最高売上。需給対応力強化等で増益。
- ・通販：通販限定の野菜飲料、サプリメントなどが好調に推移し増収増益。
- ・業務用：トマトソースや野菜飲料などの受託品落ち込み、輸入商材の為替影響などにより減収減益。

平成27年12月期 セグメント別収益状況

◆海外売上・営業利益

単位:億円

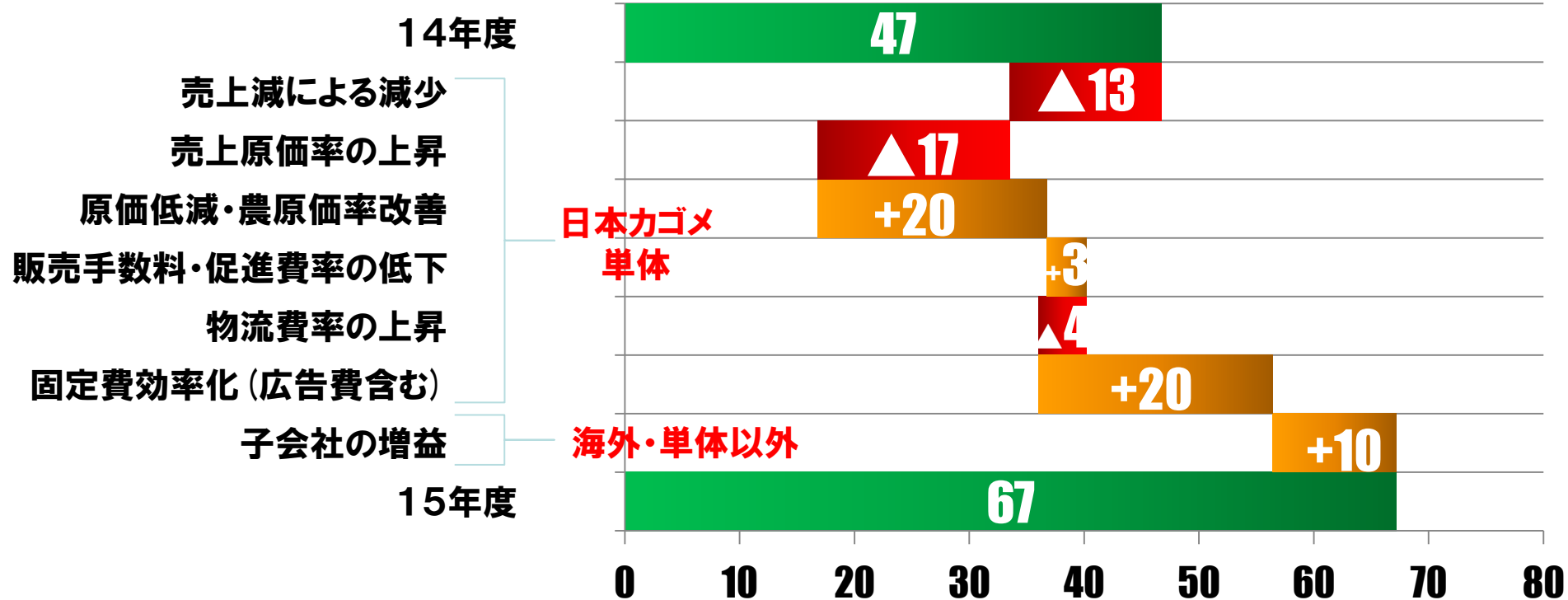
	売上高				営業利益			
	14年度	15年度	増減額	増減率	14年度	15年度	増減額	増減率
国際事業	408	479	+ 71	+ 17.4%	▲8	2	+ 10	—
グローバルトマト事業	401	441	+ 40	+ 10.0%	▲3	7	+ 9	—
国際業務用	369	404	+ 34	+ 9.3%	▲2	9	+ 10	—
種子・育苗	32	38	+ 6	+ 18.7%	▲1	▲2	▲1	—
コンシューマー事業	8	38	+ 31	+ 410.5%	▲6	▲5	+ 1	—

- ・国際業務用:大手フードサービス顧客向けの販売が好調に推移し、増収増益
- ・種子・育苗:UG米国、UGトルコにおいて販売が好調。為替の影響などにより、減益。
- ・コンシューマー:米国PBI社売上高が純増、アジアは野菜飲料の販売不振、増収増益。
※アジアは、事業構造を見直し、15年度に特別損失5億円を計上

平成27年12月期 連結営業利益増減要因



単位:億円



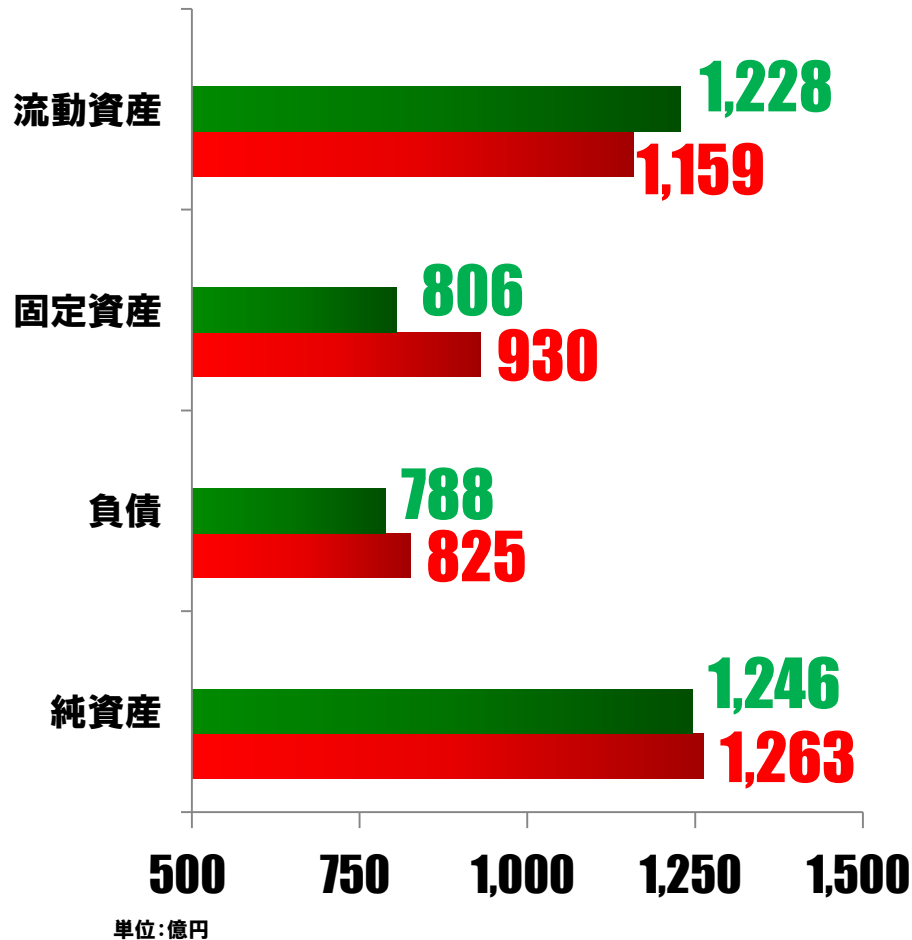
- ・国内事業の売上減少、原材料価格高騰による原価率上昇、物流費上昇がマイナス。
- ・原価低減活動や農事業での利益改善により、原価率上昇分をカバー。
- ・広告費の効果的投入や、生産性の向上により固定費減少。
- ・海外事業は、米国事業の成長や、各社の費用の見直しによりプラス。

平成27年12月期 連結貸借対照表の変動



単位:億円

■:2014年12月末 ■:2015年12月末



流動資産 ▲69 (▲21)

- ・キャッシュの減少 ▲ 26
- ・売上債権の減少 ▲ 11
- ・デリバティブ債権の減少 ▲ 42

固定資産 +124 (▲17)

- ・固定投資による増加 + 77
- ・減価償却による減少 ▲ 69
- ・PBI社子会社化による増加 +124

負債 +37 (▲7)

- ・有利子負債の増加 + 16
- ・仕入債務の増加 + 10

純資産 +18

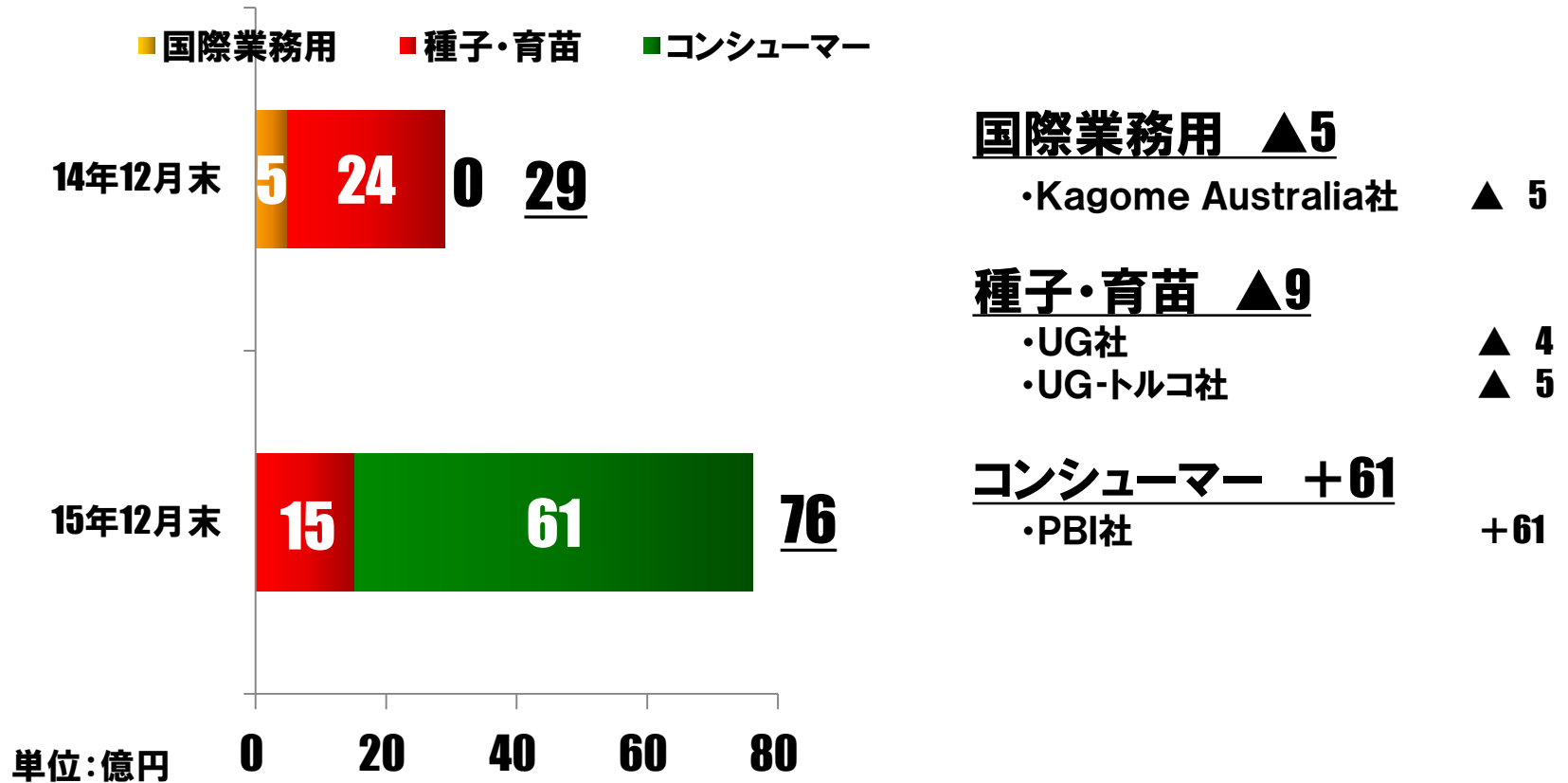
- ・当期純利益による増加 + 34
- ・配当による減少 ▲ 16
- ・繰延ヘッジ損益の減少 ▲ 23
- ・少数株主持分の増加 + 19

※括弧内は在外子会社財務諸表の為替影響

平成27年12月期 のれんの変動



単位：億円

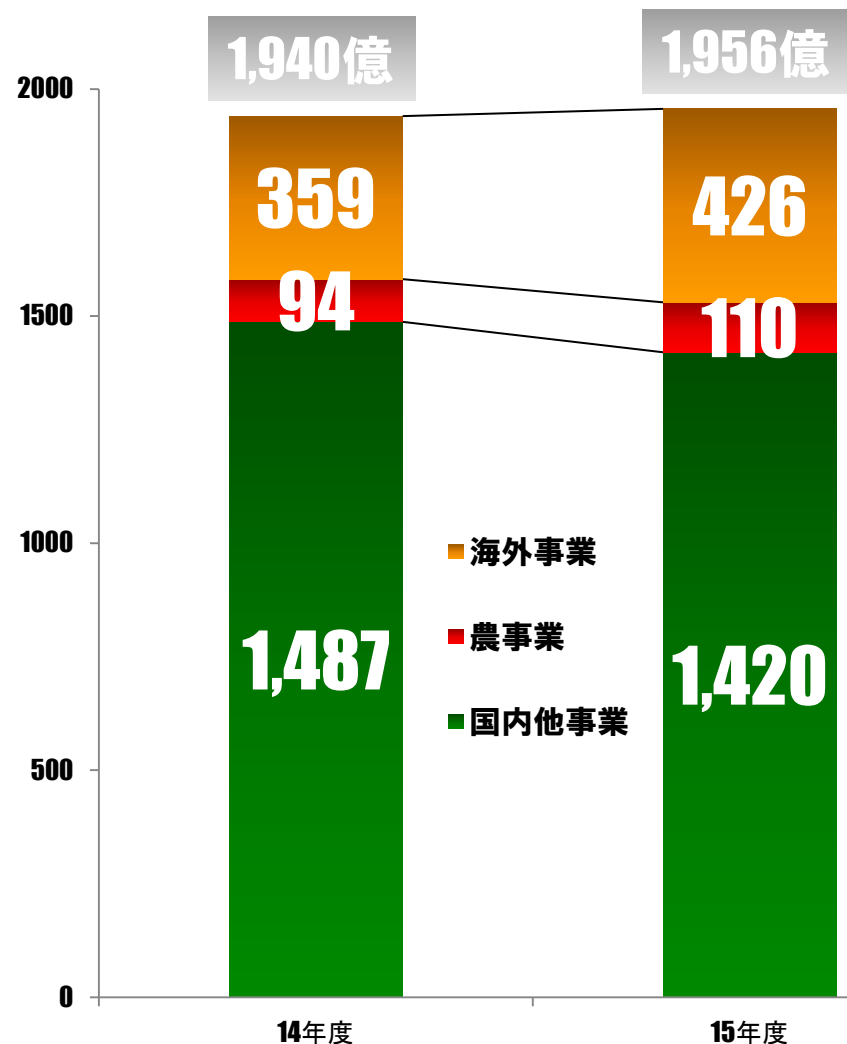


- ・コンシューマーセグメントにおいて、PBI社の取得により61億円の増加。
- ・PBI社のれんの償却期間は20年。

15年度トピックス

15年度トピックス

収益構造の改革



・海外事業

過去最高売上 **426**億円



・農事業

過去最高売上 **110**億円



⇒国内飲料事業の不振をカバーし、
全社で前年を上回る

15年度トピックス

収益構造の改革

トマトケチャップバリューアップ
⇒「オムライススタジアム」開催

トマトケチャップ売上
前年103% (2015年度)



野菜飲料バリューアップ
⇒新容器リーフパック導入

リーフパック売上
前年103% (15年12月)



15年度トピックス

働き方の改革

働きやすい環境を整備し、カゴメのすべての人財・能力を活かすことを目指す

・20時以降の残業禁止
⇒業務効率化

・サマータイム制の導入
⇒就業時間の30分前倒し

本社従業員の一人当たり残業時間64時間/年、26%減少

自己研鑽による自身の価値向上を期待



16～18年度 中期経営計画

【10年後のカゴメ像】

「食を通じて社会問題の解決に取り組み、 持続的に成長できる強い企業になる」

Solution

KAGOME



社会問題

健康寿命の延伸



地方創生・農業復興



食料問題

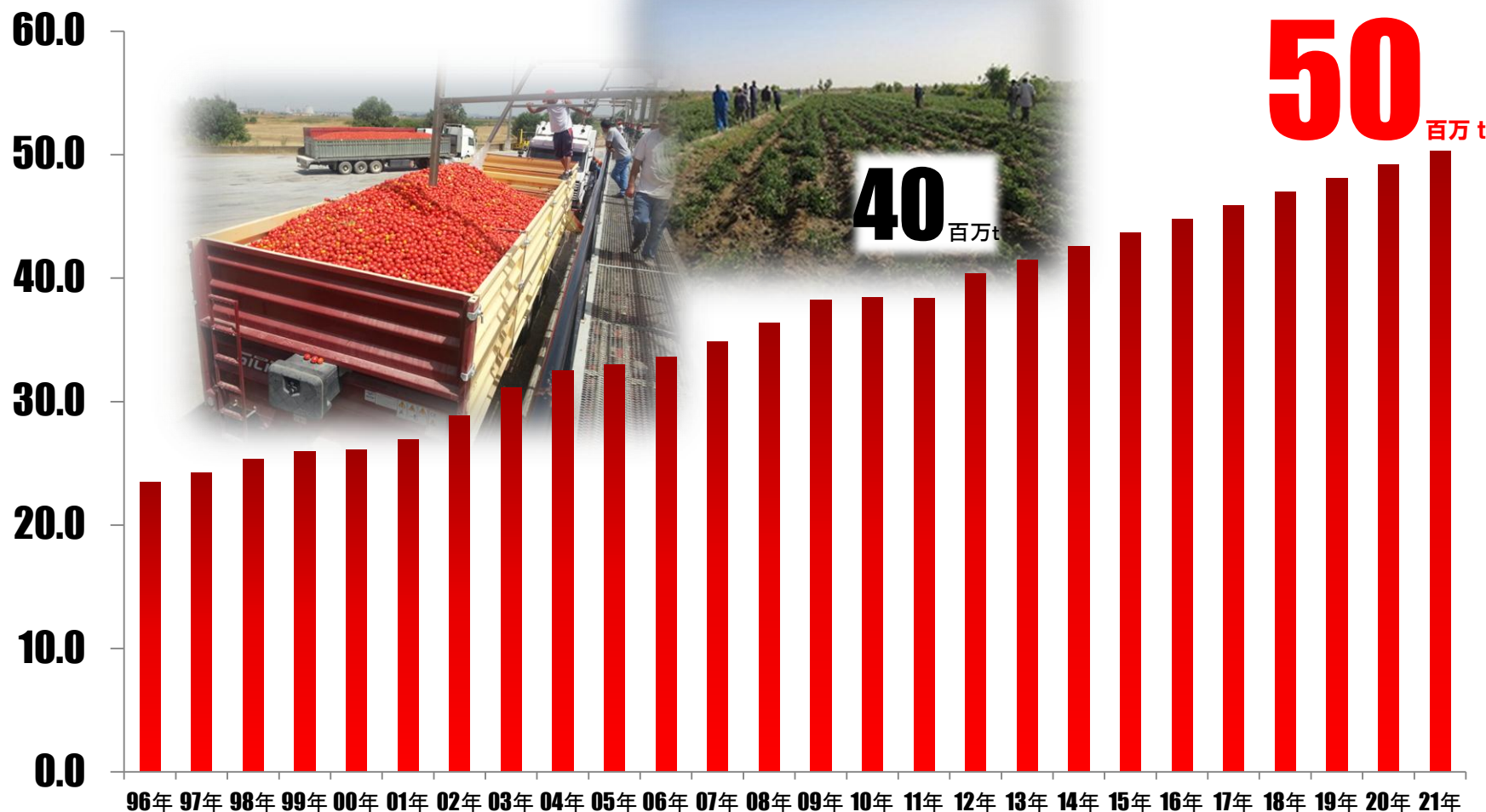
(栄養不足と肥満増加)



中期経営計画ビジョン

◆加工用トマト消費量と将来予測

単位:百万トン



カゴメ調べ(2012 WPTCデータ引用)

12年以降は当社算出

中期経営計画 定量目標

連結売上高: **2,200億円** (15年度比12%増)

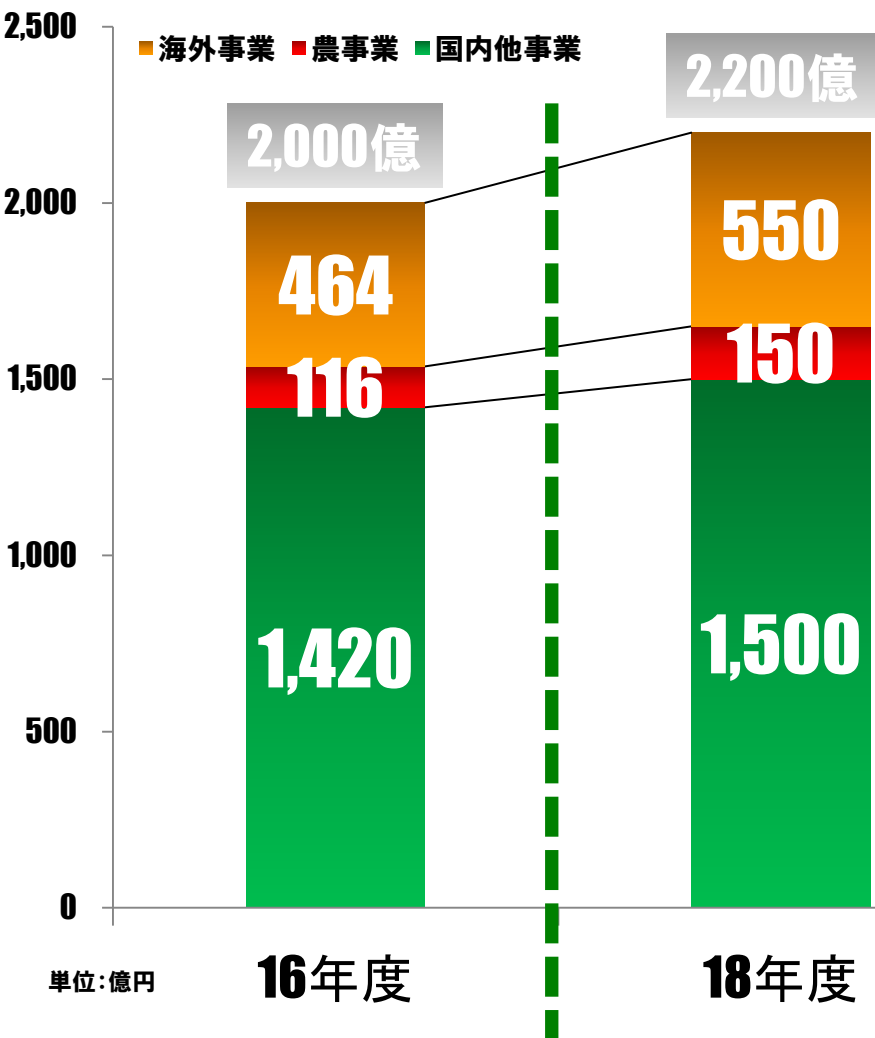
連結経常
(営業)利益率: **5%** **110億円** (15年度比
64%増)

ROE: **5%** 配当性向: **40%**

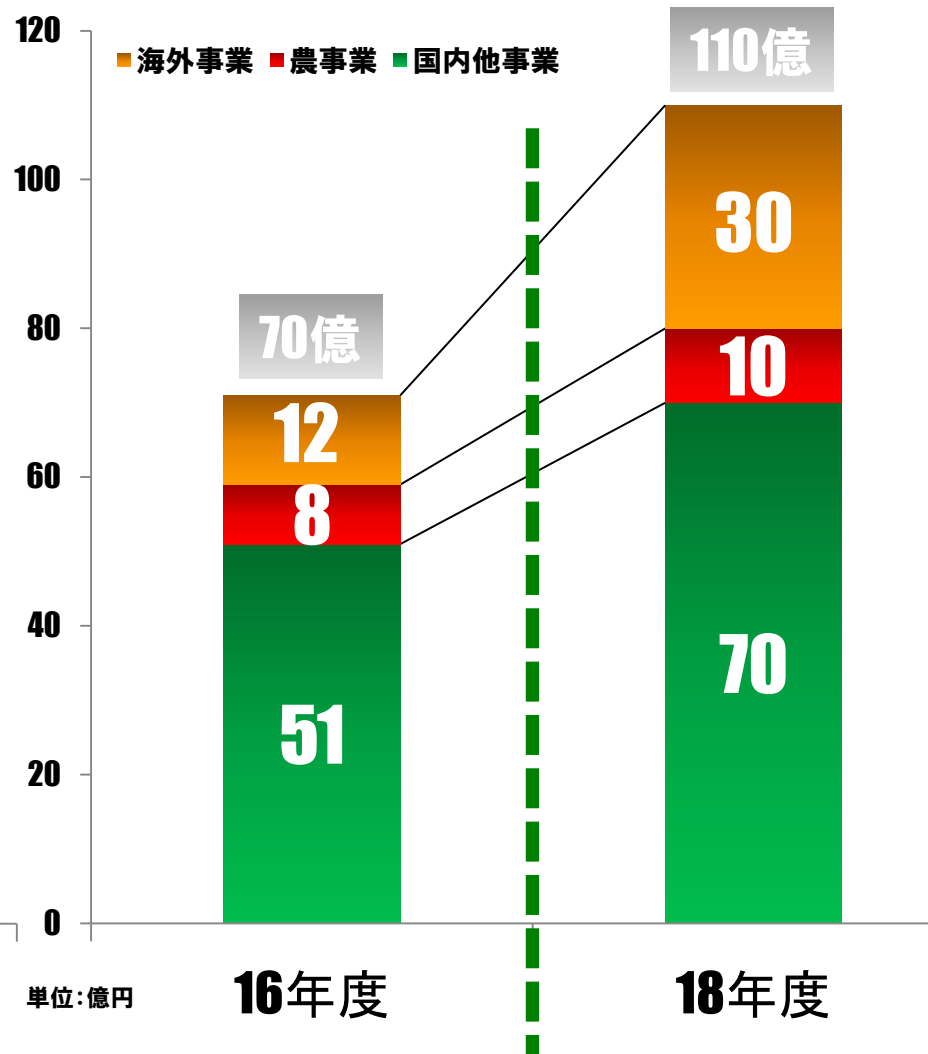
<内訳>	海外	農事業	国内事業 (農事業除く)	合計
売上	550億円	150億円	1,500億円	2,200億円
営業利益	30億円	10億円	70億円	110億円

中期経営計画 定量目標

◆ 連結売上



◆ 連結経常(営業)利益



海外売上高: **550億円** (15年度比29%増)

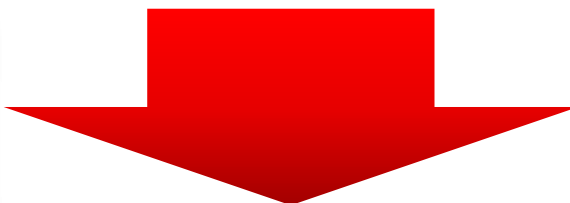
営業利益: **30億円** (15年度比15倍)

※各事業は「セグメント間の消去・及び調整」後数値



グローバルフードサービス対応

- ・主要顧客への開発営業、商品開発のグループ内連携強化



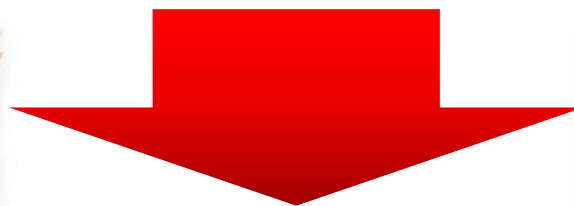
PBI取得・シナジー効果

- ・PBI社のオーガニックグロース
- ・北米でのコンシューマー事業開発

農事業売上高: **150億円** (15年度比36%増)

営業利益: **10億円** (15年度比43%増)

※各事業は「セグメント間の消去・及び調整」後数値



パックサラダ拡大

- 販売エリアの拡大
- 発芽大豆、ケール、スプラウト
など、機能性野菜拡充

生鮮トマト拡大

- 高付加価値トマトの拡大
- 最先端の栽培技術

ベビーリーフ拡大

- Ready to Eat 商品開発

中期経営計画 国内事業(農事業除く)



国内事業売上高：**1,500億円** (15年度比6%増)
※農事業除く

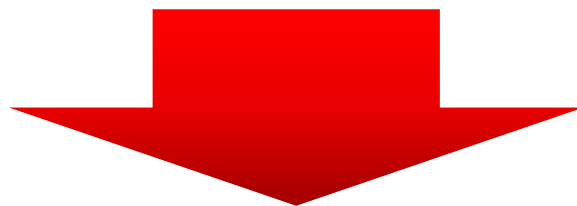
営業利益：**70億円** (15年度比21%増)
※農事業除く

※各事業は「セグメント間の消去・及び調整」後数値



飲料事業

- ・機能性表示飲料
- ・生鮮飲料「GREENS」



食品事業

- ・生鮮調味料、生鮮調理食品
- ・トマトケチャップ減塩メニュー

中期経営計画

働き方の改革と収益構造改革/企業価値向上への取り組み



収益構造改革と働き方の改革

・SCM本部立ち上げ

⇒販売、生産、調達の各計画を一元的にコントロール

・ダイバーシティ

⇒専門部署の設置。性別、年齢、国籍に関わらず、社外にも幅広く人材活用

・カゴメアクシス株式会社立ち上げ

⇒間接業務を集約・標準化、グループ全体の業務効率向上



企業価値向上への取り組み

・健康経営

⇒健康寿命の延伸を担うにふさわしい「体と心の健康企業」

・監査等委員会設置会社

⇒客観的評価を受けるガバナンス体制を構築



平成28年12月期 通期 連結業績予想

平成28年12月期 通期 連結業績予想 売上



単位：億円

		15年度	16年度 予想	増減	増減率
売 上	高	1,956	2,000	+ 44	+ 2.2%
	国内事業	1,670	1,674	+ 4	+ 0.3%
	飲料	744	748	+ 4	+ 0.5%
	食品	232	225	▲7	▲3.0%
	ギフト	80	83	+ 3	+ 4.2%
	農	110	116	+ 6	+ 5.2%
	通販	88	88	▲0	▲0.3%
	業務用	261	264	+ 4	+ 1.3%
	その他	155	150	▲5	▲3.1%
	国際事業	479	522	+ 42	+ 8.8%
	グローバルトマト事業	441	454	+ 13	+ 2.9%
	国際業務用	404	414	+ 11	+ 2.6%
	種子・育苗	38	40	+ 2	+ 5.7%
	コンシューマー	38	68	+ 30	+ 77.1%
セグメント間取引	▲193	▲196	▲3	—	

平成28年12月期 通期 連結業績予想 利益



単位:億円

	15年度	16年度 予想		
			増減	増減率
営業利益	67	70	+3	+4.1%
国内事業	65	59	▲7	▲10.1%
飲料	23	17	▲5	▲23.8%
食品	18	19	+1	+6.4%
ギフト	1	2	+1	+75.8%
農	7	8	+1	+9.8%
通販	9	7	▲2	▲17.5%
業務用	2	2	+0	+10.5%
その他	6	4	▲2	▲38.6%
国際事業	2	12	+10	+482.3%
グローバルトマト事業	7	12	+5	+78.0%
国際業務用	9	12	+3	+34.5%
種子・育苗	▲2	▲0	+2	—
コンシューマー	▲5	▲0	+5	—
セグメント間取引	—	—	—	—

経常利益	70	75	+5	+6.9%
-------------	----	----	----	-------

当期純利益	34	45	+11	+30.8%
--------------	----	----	-----	--------

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみで全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますので注意ください。